

あがつま



「兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」

(ローマの信徒への手紙 12章1節)

♪ 賛美歌を歌おう③⑥ 『わが身の望みは』

(讚美歌 280番)

新約聖書の「家と土台」のたとえ(マタイ7:24、ルカ6:47-49)に基づいているこの賛美歌は、イギリスのバプテスト教会の牧師であったエドワード・モート(1797-1874)によって作られました。

モートは、ロンドンのパブ経営者の両親のもとに生まれ、家具屋や新聞の原稿を書いて生計を立てていましたが、50代になって牧師となり、イングラッド南西部の町ホーシャムにあった教会の牧師を26年間努めました。

礼拝堂の確保のため尽力したモートに、ホーシャムの信徒たちは感謝の気持ちから、その礼拝堂をモート個人の財産とすることを提案しました。が、彼はその贈り物を拒否し、

「私は礼拝堂が欲しいのではなく、説教壇が欲しいだけだ。私がキリストを説教しなくなたら、私をそこから追い出してくれ」と答えたという逸話は、残されています。また彼は、1873年に健康を害して牧師職を退くまで、一度も日曜日の礼拝説教を欠かすことはありませんでした。

牧師を退いた翌年、モートは息を引き取り、彼が愛した信徒たちによって教会裏の小さな墓地に葬られました。

『堅い岩であるキリストの上に、私は立っている。他のすべての地は、沈む砂である。』(くり返し部の直訳)と歌うこの賛美歌には、モートの生涯が映し出されているように思えてきます。

(稲垣)



